

「国語力」の向上

【現状と課題】

知的活動，コミュニケーションや感性，情緒の基盤である言語に関する能力を育成することは，学力に関する各種調査において課題があるとされている知識・技能の活用などに必要な思考力，判断力，表現力等の育成にも重要です。

平成18年3月に鹿児島県100人委員会から出された意見・提言では，『「国語力（＝感性や情緒，思考，表現などの基盤となる力）」の向上』を推進することとされています。

児童生徒の「国語力」の向上には，国語科だけでなく，すべての教科における取組が必要であり，その際には，学校図書館を活用した取組も大切です。

県内すべての小中学校において，1週間に1回以上全校一斉の読書の時間が設定され，また，約8割の高等学校において，朝読書の活動が行われるなど，学校全体で児童生徒の読書活動の推進に取り組んでいます。

【これからの施策の方向性】

学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ，言語活動を重視した取組を通して，「国語力」の向上を図ります。

読書に親しむ態度を育成するための取組や学校図書館等を活用した読書活動の推進などを通して，全教科の基礎となる「国語力」の向上を図ります。

児童生徒の自発的・主体的な学習活動を支援し，必要な情報を収集・選択・活用する能力を育成するために，学習情報センターとしての学校図書館の充実に努めます。

【主な取組】

各学校では，国語科はもとより各教科で，記録，説明，論述，批評など教科の特質に応じた言語活動が計画的に取り入れられるよう指導します。

朝の読書活動やボランティア等の活用による読み聞かせ，緑陰読書，読書週間など地域や家庭と連携した学校の読書活動の推進に努めます。

学校図書館において，司書教諭の配置や蔵書の充実などを図ることにより，児童生徒の「本に親しむ」環境の整備に努めます。